

基本練習問題 8-2

<解答>

原 価 計 算 表

自 20X1年6月1日 至 20X1年6月30日

(単位：円)

	製造指図書			合 計
	No. 61	No. 62	No. 63	
前月繰越	98,500	0	0	98,500
直接材料費	6,100	113,300	105,200	224,600
直接労務費	45,000	154,600	37,700	237,300
直接経費	0	13,000	4,000	17,000
製造間接費	20,100	100,500	67,000	187,600
合 計	169,700	381,400	213,900	765,000
製造着手日	20X1.5.23	20X1.6.4	20X1.6.24	
完 成 日	20X1.6.10	20X1.6.22	—	
備 考	完成・引渡済	完成・未引渡	未完成	

仕 掛 品

[前月繰越] (98,500)	[製 品] (551,100) ←No. 61+No. 62 (当月中に完成)
[直接材料費] (224,600)	[次月繰越] (213,900) ←No. 63 (当月中に未完成)
[直接労務費] (237,300)	
[直接経費] (17,000)	
[製造間接費] (187,600)	
(765,000)	(765,000)

製 品

[仕 掛 品] (551,100)	[売上原価] (169,700) ←No. 61 (当月中に販売済)
	[次月繰越] (381,400) ←No. 62 (未販売)
(551,100)	(551,100)

【解説】

まず、原価計算表を埋めるために製造間接費 187,600 円について、直接作業時間を配賦基準として、次のように製造指図書 No. 61～63 に配賦する。

$$\text{No. 61} : 187,600 \div (30 + 150 + 100) \times 30 = 20,100$$

$$\text{No. 62} : 187,600 \div (30 + 150 + 100) \times 150 = 100,500$$

$$\text{No. 63} : 187,600 \div (30 + 150 + 100) \times 100 = 67,000$$

続いて、原価計算表の「製造着手日」、「完成日」、「備考」の情報から、製造指図書 No. 61～63 が 6 月 30 日時点で仕掛品、製品、売上原価のいずれの状態にあるかを把握することが必要になる。

No. 61 : 5 月中に製造を開始し、6 月中に完成、販売済 → 売上原価

No. 62 : 6 月中に製造を開始し、6 月中に完成、未販売 → 製品

No. 63 : 6 月中に製造を開始し、6 月末時点で未完成 → 仕掛品

したがって、仕掛品勘定の貸方は製品が No. 61 と No. 62 の合計額となり、次月繰越が No. 63 の金額となる。また、製品勘定の貸方は売上原価が No. 61、次月繰越が No. 62 の金額となる。